

お念仏と共に ～ 如来に念じられて生きていこう ～

報恩講特集



寸劇「なんだろうなのまこっちゃん」の一場面

隣る人

オウム真理教の信者であった井上嘉浩さんは、出家の動機について、手記に「居場所がない。非常に寂しい」と記していました。

秋葉原で無差別大量殺人を犯した加藤智大ともひろさんは「孤独は不幸 ひとりの寂しさは お前らには分かるまい 勝ち組はみんな死んでしまえ」とブログに書き込みました。それを見た多くの若者が、加藤さんの訴えた「孤独」に共感しました。

「孤独」寂しさは、井上さんや加藤さんだけのことではありません。それは、自分の人生は自分の足で歩まねばならない人間のだれもが抱え込んでいる悲しみです。

どうしたら私たちは、この悲しみに押しつぶされずに、生き死にすることができのでしょうか。

平野喜之先生しゆきは、心の中に、共に悲しみ共に苦しんでくれる隣となる人」がいて下さるかどうかが、によると教えて下さいました。

隣る人」は「心の中」の存在です。もし、親や子、連れ合いや友人に、「隣る人」を要求すれば、もたれ掛かりの支配となり、そのはてで憎悪と絶望の蟻地獄に堕ちるでしょう。

隣る人」はどこにおられるのでしょうか。教えを聞いていきましょう。

み仏をよぶわが声は み仏の
われをよびます み声なりけり (甲斐和里子)

写真で たどる 報恩講

二十四日

昨年しねんの報恩講は大雪でした

が、今年
は暖かな
報恩講と
なりまし
た。報恩
講は、仏
具のおみ
がき・お
華束けそく用の
お餅つき・お掃除から始
まります。今年は、33人の
方が、自
分の得意
なところ
に入っ
て、
お手伝い
をして下
さいまし
た。



二十五日

翌日、総

代さんが、
ほどよく乾
いたおもち
でお華束造
り。毎年
のことながら
四苦八苦しながら八個のお華束を造りました。



仏さまにお供えする仏華は、

佐々木のり
子さん、香
田さん、坊
守、風さん
が、美しく
なった花瓶
に活けてく
れました。



二十七日

報恩講初日。当番の方を中

心に21名の方が朝早くから、
27、28日のお齋のための準備
をして下さいました。常任
委員の方々は三日間、会計の
仕事を担って下さいました。
午後一時より、お荘厳され

た本堂で、
近隣のご住
職、四日市
別院の皆様
と一緒に、

参詣者全員
で、声高ら
かにお勤め
をしました。

お勤めの

後、小若
女弘子さ
んと坊守
さんによる
「おさめ
さんとお



もとさん」と題した腹話
術。そのままご法話である
すばらしいものでした。

二八・二九日

28日は25人の方で百食を、

29日は21人で70食のお齋を作っ
て下さいました。いつもなが
ら、お煮染めを中心にしたお
いしいお齋でした。当番の皆
様、婦人会の皆様、ご苦勞様
でした。

（寸劇とご法話は別頁で）
ふり返ってみれば、報恩講
は、準備から法要当日の内容

まで、多岐にわたる一大イベ
ントでありますね。大変でし
たが、みんなで力を合わせて
創りあげていった慶びが、
お寺にあふれていたように思
います。

恩知らずの私たちであれば
こそ、報恩講を勤めることを
通して「生かされて生きてい
る」ことを
思いだし感
謝の生活を
回復してい
けたらと思
います。
（知道）



皆さん、ご苦勞様でした

真宗門徒にとって大事
な報恩講を皆さんと共に
勤めることが出来ました。
今年の当番地区は、院内
の副、小坂、北山、沖、
新洞と三光の深水でし
た。現代は核家族化
が進み、親世代が年
老いけば病院に入院
したりケア施設に入るこ
とになって、家は空き家
になってしまいます。そ
んな中、総代さんの熱心
なお世話とお声掛けで、

親子や夫婦で来て下さっ
たり、二日、三日も出て
下さる人もいました。
感想を聞きましたら、
「楽しかった」「お料理
た」「毎年お齋作りして下
さる人達がいるから
こそできました」。

当番地区をまとめ
て下さった南 耕治
さん、川面美智子さん、
権藤孝子さん、向野茂さ
ん、奥永義彦さん、有り
難うございました。

が勉強になった」「みんな
で作って食べるのは、やつ
ぱりおいしい」「五年に一
度の当番だから、最後まで
思っ

度度
思っ
て一
生懸
命さ
せて
も

（純子）

なんだろうなのまこっちゃん

今年の報恩講では久方ぶりに寸劇がありました。若い二人が、お念仏の心を尋ねていく、笑いあり、問いあり、教えあり、の傑作でした。誌上で再現してみましよう。(寸劇と腹話術の貸出し用ビデオができています。ご希望の方はお申し出下さい。)



風「ナンマンダブって、何の意味あるの？」
信「え、何だろう？」
皆に聞いてみようか」



香田「念仏したら、煩惱もひっこみ、わがままもなくなるのよ」
佐藤「違うでしょう。煩惱いっぱい、わがままな自分と知らされるのでしょう」
信「？」



外国からの旅行者「日本の若者、無宗教と言いますね。ラブ&ピース。宗教、大切ですね。」

小学生の時以来の劇でした。まず台本を書くのに全く手が進まず、困りました。けれども、今のこのまんまで書くと、ああいった内容になっ
ていきました。
私自身、仏教の学校で勉強したからと
らといって、お寺の法務のお手伝いをしてい
るか
らと
い
っ
て、
仏
教
や
宗
教
に
対
し
て、
自
分
自
身
の
中
に
違
和
感
や
疑
問
が
起
こ
ら

はじめてのお寺の劇 村田 風

小学生の時以来の劇
ないなんてことはありま
せん。「なんで私はなん
まんだぶつと称えるのだ
ろう」「称えることが素
直にできないのだろう」
え
る
声
を
聞
い
て、
私
が
安
心
し
て
い
た
り
す
る
の
で
す。
こ
の
劇
で
は、
出
演
し
て
い
た
だ
い
た
皆
さ
ん
の
自
作
自
演
が
と
も
す
ば
ら
し
く
て、
そ
れ
に
と
も
も
助
け
ら
れ
ま
し
た。
ま
た
見
て
く
れ
た
方
も
楽
し
く
盛
り
立
て
て
く
れ
て、
そ
れ
に
突
き
動
か
さ
れ
る
よ
う
で
し
た。
お
か
げ
で
私
は
た
の
し
い
時
間
を
過
ご
さ
せ
て
も
ら
っ
た
よ
う
に
思
い
ま
す。



女性住職「ナンマンダブって、お・も・て・な・し・の心！」



住職「私は仏さまのお慈悲の中と、気づいた慶びよ」



おばあちゃん「昔から、皆が言っているから申すのよ」



親鸞聖人「法然上人のお言葉や姿が忘れられない」

生きることを学び、 学ぶために生きる

平野喜之師 (石川県・浄専寺住職)

今回、「生きることを学び、学ぶために生きる」というタイトルでお話をさせていただきます。大学時代、親しい友人が自ら命を絶つというつらい経験がありました。その友人は、後輩の苦悩を受け止めて「生きることを学ぶ」という卒論を書いたけれど、自身が苦しんだ時にそれが何の役にもたたなかった。じゃあ「生きることを学ぶ」というのは何だったんだろうか、今度は僕自身の中に問いが起こってきたわけです。

子どもは、誰かと一緒にいる時に、一人になることができる

これはウイニコットという教育学者の言葉です。子どもの遊びの段階に「家遊び」

「軒遊び」「群れ遊び」の3段階があります。「家遊び」はお母さんと子供がべったりの状態、「軒遊び」は振り返れば母親がいつも見てくれている状態、「群れ遊び」は母親と離れて子どもたちと交わって遊ぶ状態です。ウイニコットが問題にしているのは、「群れ遊び」の段階なんですね。外側にある母親が、心の存在として、いつも自分のことを見て愛してくれている。そういうことに基づいてはじめて、子どもは母親から離れて自立して遊ぶことができる、そのことをあらわした言葉です。

隣の人

二〇〇八年に秋葉原事件を起こした加藤智大(ともひろ)さんが「彼女がいなかったか

ら自分はこんなふうになってしまったんだ」とブログに書いていた。芹沢俊介さんという方が、この「彼女」という言葉であらわしているものは一体何なのかを丹念に読み解いて、それが実は「隣の人」のことだと言っています。加藤さんの心の中に「隣の人」がいれば、もしかしたら自己崩壊までには至らなかったんじゃないかと思えます。加藤



さんが「孤独」という言葉で事件に至るまでの心の軌跡をブログに書いたなら「彼がやったことは許せないが、彼のいう孤独ということはよく分かる」と共感のコメントが三十七何万件寄せられたそうです。僕自身が出会った友人が自ら命を絶ったこととかオーム真理教に救いを求めていった友

達とかも、そういう問題と共通しているのではないかと思っ

ているんです。これは僕の中の課題で、何かお話しすると言われたら必ず繰り返してお話してしまふことになるんですね。

新美南吉の「狐」

— 無条件の愛 —

今日は、その先の話で、二つのお話したいと思えます。一つは新美南吉作品の「狐」というお話と、もう一つは『観無量寿経』に書かれてあるイダイケ夫人の物語です。

南吉は4歳の時に母が亡くなり、2年後にお父さんが再婚、その2年後に弟が生まれます。南吉の作品には「ごん狐」に代表されるようにどこか悲しいというか、人間と人間の心のすれちがいだとか苦しみが描かれています。「狐」という作品では、狐になつてしまった文六ちゃん(南吉の投影)と一緒に自らも狐になつて猟師に追われようとする母親が描かれています。

南吉は、「自分が生涯をかけて母親を愛したのは、たった4年間だったけど母親が無条件の愛で自分を愛してくれたからなんだ」と思っています。この作品は南吉が亡くなる一週間前に書かれたのですが、この作品を書くことによつて南吉は母親に出会つて、そういうところに落ち着いて亡くなつて行つたんじゃないかと思っております。

イダイケ夫人の物語

— 罪福信 —

鈴木大拙という禅のお坊さんが阿弥陀さんの大悲の「悲」を「コンパッション」という

自分の幸せを邪魔するものを追い払えば幸せがやってくる、そういう信仰で生きることを、親鸞聖人は「罪福信さいふくしん」とおっしゃっています。イダイケ夫人は、それを3

回繰り返すわけです。一度目は、占い師から言われた「子どもが生まれにくいのは仙人が長生きして邪魔しているから」という言葉を信じて、仙人を殺します。二度目は、また占い師から、殺した仙人がうらみをいだいて生まれてきて自分たちを害すると言われて、子どもを高殿から生み落とすて殺そうとします。三度目は、そのことを知った子どもから害されそうになり、お釈迦様に愚痴の限りをぶつけるわけです。

その物語の「罪福信」ということの前提として、「人生というのはうまくいって当たり前なんだ」ということがまらずあると思います。うまくいって当たり前なのにどうして困ったことが起きるのだろう。困ったことが起こってくるには理由があるはずだ。だから、その原因を取り除けば自分に幸せが来るだろう。そんなことを考えるのが人間の在り方だと思います。そこには、「私は善というのとは何かよく知っている」あるいは「何が悪なのかをよく知っている」とい

う、そういう前提があるのではないでしょうか。私たちはそういう前提を持って生きていくのですが、その前提を疑っていかねばならないと思います。

私たちの善悪の基準はいったいどこにあるのかというと、中身を検討していったら、自分の思い通りになることが善でしょう。思い通りにならないことが悪でしょう。藤谷知道さんは、善人になろうとする道は悪人を排除する道にな

るといふ見方で地下鉄サリン事件を見られましたけど、本当にその通りやと思います。

『観無量寿経』では罪福を信じて生きるイダイケ夫人が描かれています。これは私たちそれぞれの生き方そのものやと思います。私たちは気がつかないかもしれないけれど、イダイケ夫人と同じ生き方をしていると思いますね。

イダイケ夫人の苦悩と救い

この悲劇を生み出したのは

イダイケ夫人の自己保身の心だと思えます。しかし、仏教を信仰して国民から尊敬されていたイダイケ夫人も「跡継ぎを早く産んで欲しい。子どもを産んでこそ本当の王妃じゃないか」という国民のささやきに追い詰められ苦悩していたんだと思えますね。事件の後イダイケ夫人は、自分自身が犯した罪を深く見つめて、自分が生まれたかったのは無条件の愛で受け入れられる世界、「阿弥陀の浄土」に生ま

れたいという願いに気づかれたと思えますね。

(聞き書き担当者感想)

結婚するときに奥様からいただいた懐中時計に「compass」と刻まれていたという感動のエピソードを最後に披露していただきました。平野先生が語る新美南吉の作品に込められた悲しみと光、何回聞いても感動します。ありがとうございました。

南無阿弥陀仏(釈和敬)

勝福寺報恩講は、お斎のお給仕に男の方も頑張っていました。寸劇は、笑いの中に大事なものを挟んだ楽しいもの、読経は感謝を込めた力強い声で唱えられました。その後の御文拝読の声の抑揚には、何か今までにない身の奥底を揺さぶられるものがありました。勝福寺さんは教えを実践して

いるなあ、親鸞聖人もお喜びだろうと思えました。法話の平野喜之先生は、自死の問題やオウムに関わる人の死刑の問題に、知り合いを助けたいと自ら飛び込み、今も真宗の

教えを実践し続けられている若い人で、私の今までに出遇ったことのない先生でした。いじめで苦しんで自死しか選べない子供、自分では抵抗の出来ない幼

うですが、お父さんが最期に「有り難う」と言ったと看護婦さんから聞いて、母はその一言で癒やされたのでは、とおっしゃっていました。

また「隣人」の出来事が起こります。仏教でなかで、は、何一つ無駄なしと教えられていますが、これからは聴聞の姿勢を正し、いろいろな問題に呼ばれつつ、問われつつ、問いつつ歩むのが念仏往生の一道だと思えます。

お育ていただく報恩講

中津市 重成真知子

で親に殺される世間で、人間関係が問題となる場所には先生のような人が必要な存在です。先生も、お父さんとうまくいかない時があり、お母さんのことが気になっていたそ

一人でおられるのは、心の中に励ましている母親の姿があるから。信頼してる人に見捨てられたり、親を亡くした子の淋しさ、孤独の心には、無条件の愛で共に苦しみ悲しむ法

また「隣人」の出来事が起こります。仏教でなかで、は、何一つ無駄なしと教えられていますが、これからは聴聞の姿勢を正し、いろいろな問題に呼ばれつつ、問われつつ、問いつつ歩むのが念仏往生の一道だと思えます。

南無阿弥陀仏

ご門徒さん

こんにちは！

第7回

勝福寺の報恩講の際にお参りにみえた方々に供されるお齋作りに関わって47年の大ベテラン、それが麻生民子さんです。今回はその麻生さんを紹介します。

麻生さんは今年76歳、宇佐市上矢部の出身で3人兄弟の一番上の長女として生まれました。生家は江戸時代に親孝行でお殿様から表彰された「孝女伊知」で知られた家の近くで、その人懐っこい笑顔から想像できるように子供の時からみんなからとても可愛がられて育ったそうです。

ご主人の史紀さんは5人兄弟の長男で3つ年上だったのですが、残念ながら4年前に肺炎で亡くられました。そのご主人との出会いはお姑さんのお兄さんと麻生さんの父親がとても仲が良く、麻生さん22歳、ご主人の史紀さん25歳の時に結婚しました。

結婚当初はご主人の仕事の関係で大阪に住んだそうです。

当時は東京オリンピックの前で空前の建設ブーム、大工さんだったご主人の給料は麻生さんが結婚前に勤めていた農協の額の30倍近くあったのにびっくりしたそうです。しかし大阪での生活も、ご主人の両親が病気になる、その介護のため3年間で切り上げ、宇佐に帰ってこられました。でもたくさんの人と関わった大阪での生活は波瀾万丈で、今

関わっています。

麻生さんはとっても頑張り屋さんで、子供さんが学校を終えた頃から、近所の病院で食事のお世話をするようになり、63歳で辞めるまで20年近く働いたそうです。でも働く際のご主人の条件は「今している仕事を全部済ませてなら」ということで、家事以外に田んぼの消毒や肥料やりなど、それだけでも大変な仕事なの

そして麻生さんをよく知る方が感心するのは、お盆などで帰省する親戚のおもてなしです。よく、帰省した親戚の世話が苦になると聞きます。麻生さんも最初は苦になったのですが、ある時から「どうせするならば精一杯気持ちの良いおもてなしをしてあげよう」と思い、ずっと実行しているそうです。効果は絶大で麻生さんが親戚の法事や結婚式な

活動的で「縁を大切に作る麻生さんが勝福寺のことで、気になることがあるそうです。それは麻生さんが中心になって作るお齋の数が百八十ほどで、以前に比べて倍近くに増えています。これは勝福寺に宗派を問わず、たくさんの方が教えを求めて集まって来てとても喜ばしいことだが、昔からの門徒さんのお詣りはどうなのか、という疑問を感じているそうです。また、勝福寺や別院の護持に代々熱心に努めてきた近所の人達が高齢化と共に去って行ったが、その後がうまく引き継がれているのか、とても気になるそうです。

「お寺と共に四十七年」 お齋作りにも心を込めて



でも忘れることの出来ない3年間だったそうです。

宇佐に帰った麻生さんはお舅さんとお姑さんの介護をなさいますが、お姑さんは3年ほどで亡くられました。勝福寺とは姑さんの後を継ぐ形で29歳の頃から関わってこられました。一番若くて人なつっこい笑顔の麻生さんはお年寄りから可愛がられ、お齋の作り方などを教わったそうです。

以来47年間、勝福寺の台所に

に全部済ませて仕事に行ったそうです。でも働いてもらうお給料は全部自分がかかえるという楽しみがあり、そのお金を有効に活用しています。

麻生さんのモットーは「行ける時に行っておかないと縁が無くなってしまう」で、インドのお釈迦様の仏跡巡拝ツアーにも勝福寺の坊守さん達と参加したり、大好きな有田の陶器市には一人でもよく行ったそうです。

どに行くともみんなから「おばちゃん、おばちゃん」と言っていてとても大切にしてくれるそうです。

晩年のご主人は勝福寺の改修工事に関わり、全責任を担って毎日工事現場に顔を出して気難しい宮大工さんとお寺との調整にあたり、関係者から「麻生さんの存在なしでは改修はうまくいかなかっただろう」とみんなから感謝されています。

これは勝福寺だけの課題ではなく、今の日本全体が抱える大きな課題でもあります。大変むずかしい問題ですが、みんな考えている必要があると思います。

どうぞ麻生さんにはいつまでも元気で勝福寺を見守ってもらおうと共に、みんなにお齋作りのコツなど、47年間の財産を伝えていって下さい。

そして、大好きな花をたくさん咲かせてみんなを楽しませて下さい。

(文責 渡辺重昭)